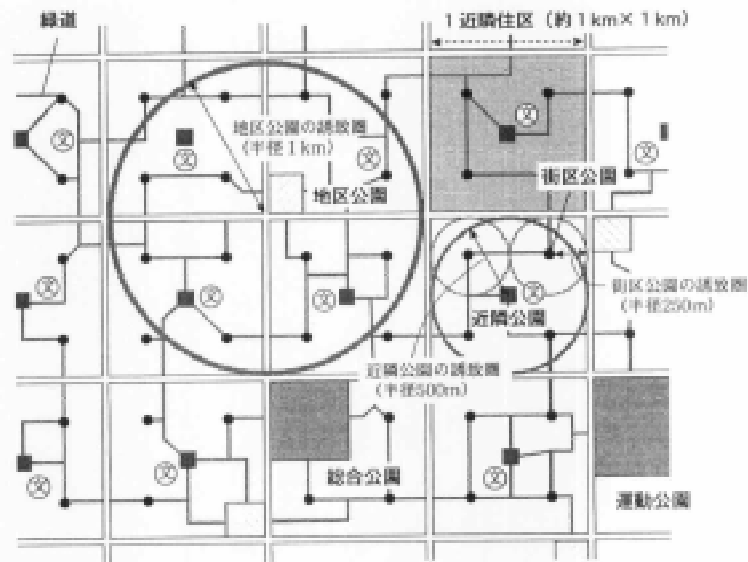


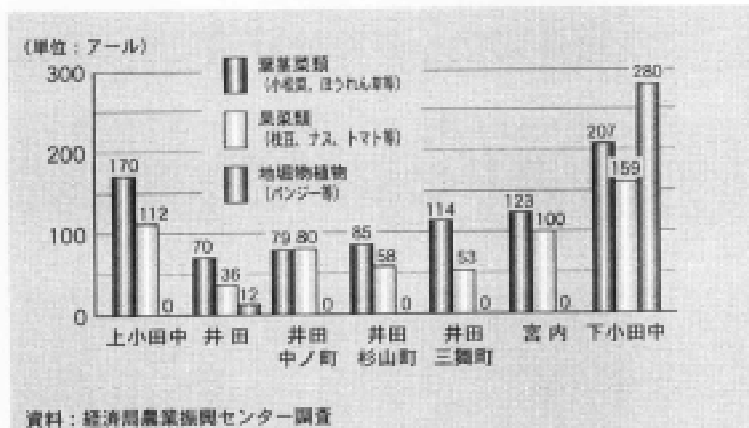
■基幹公園の配置モデル図



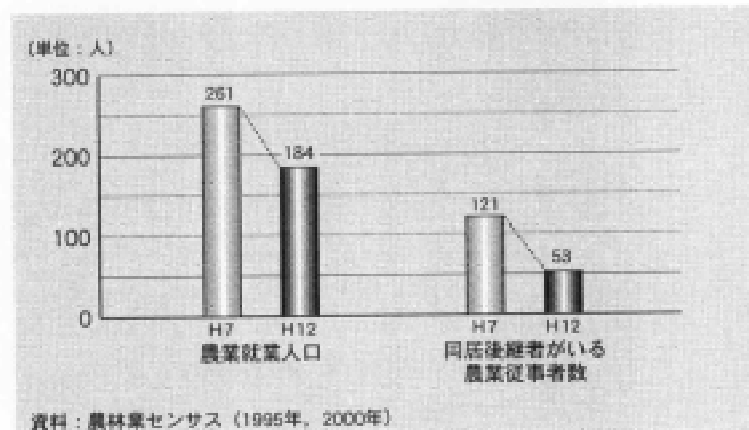
3) 農業の現状

- ・ 中原区は、畑作や花卉栽培を中心として農業が盛んな地域として知られています。
- ・ しかし、最近5年間においては、農業就業人口の減少がみられるとともに（261人から184人に減少（約3割減））、同居後継者がいる農業就業者は、平成12年では平成7年の半数以下に減少し（121人から53人に減少（約6割減））、今後も農業就業者の減少傾向が続くことが予想されます。

■農作物の栽培状況



■農業就業人口等の推移



② 中原区の水資源

・区内の水資源としては、次のようなものがあります。

■河川・水路

- ・多摩川
- ・二ヶ領用水
- ・渋谷川
- ・矢上川
- ・江川

■江戸時代後期～明治時代初期の二ヶ領用水水路網

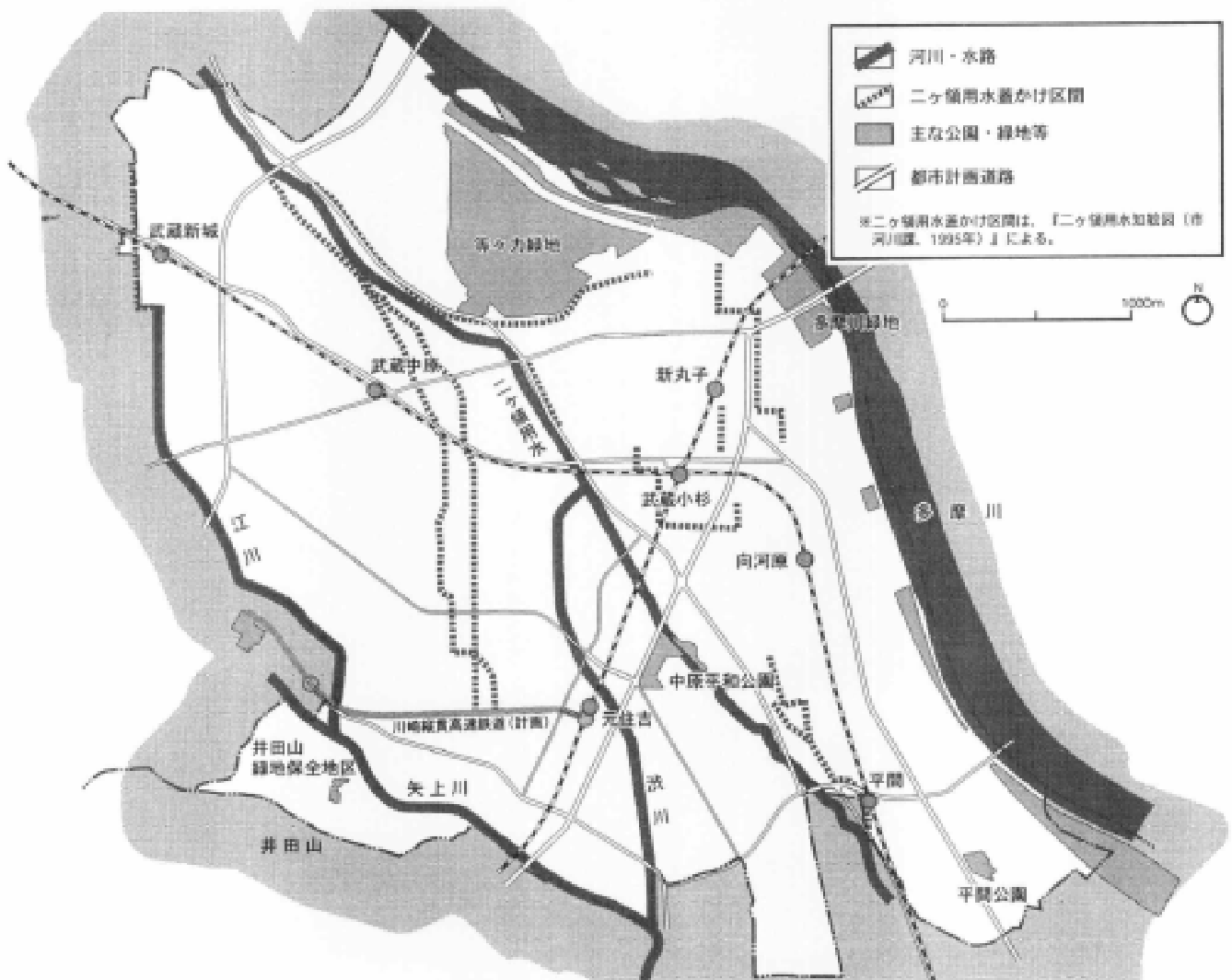


この地図は、二ヶ領用水路網が最も広く張りめぐらされた時期である江戸時代後期～明治時代初期の水路位置を文献等より推定し、我が国初の近代的な地形図（迅速図：明治14～15年参謀本部陸軍測量局発行）から読み込んだ当時の土地利用図の上に描いたものである。

〔注〕土地利用図は現在の川崎市境を迅速図上に想定し、その範囲内を色塗りしてある。なお、市境想定にあたっては、迅速図に当時の郡境が描かれている場合、それを優先してある。

資料：二ヶ領用水知絵図（市河川課、1995年）

■中原区の水資源



③ 都市景観の現状

- ・ 中原区は、中原街道が多摩川にかかる丸子の渡し付近にできた宿場町として発展したまちであり、中原街道沿いには、カギの道や小杉御殿跡など歴史的資源が残っています。小杉御殿町や小杉陣屋町という地名からも往時が偲ばれます。また、川崎七福神として知られている安養寺（福祿寿）、宝蔵寺（弁財天）、東樹院（毘沙門天）、西明寺（大黒天）、大楽院（恵比須神）、無量寺（寿老神）、大楽密寺（布袋尊）など、社寺も多く残っています。
- ・ 市の第3都心に位置づけられている小杉周辺地区を中心としてにぎわいのある商業集積がみられるとともに、区内の鉄道駅周辺についても、主に生鮮品や家庭用品等の日常生活に欠かせない商品等を扱う店舗を中心とした商店街が形成されています。

■都市景観形成基本計画にみる中原区

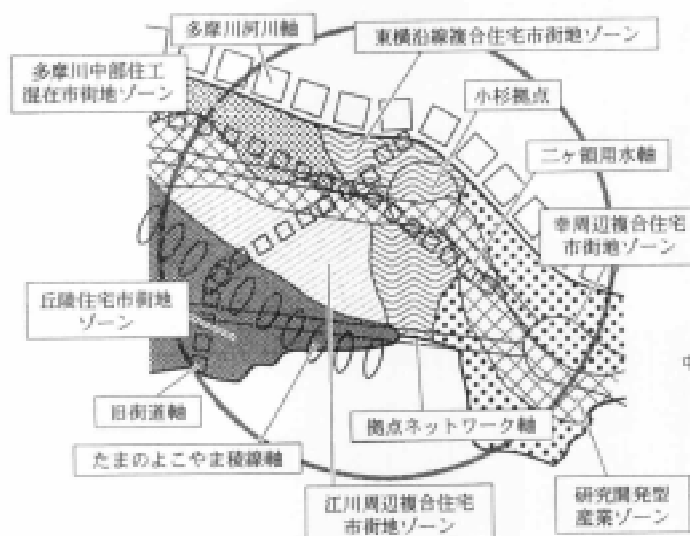
【小杉周辺生活景観図】

小杉を中心に、ほぼ中原区の範囲でひとかたまりの景観として認識される範囲

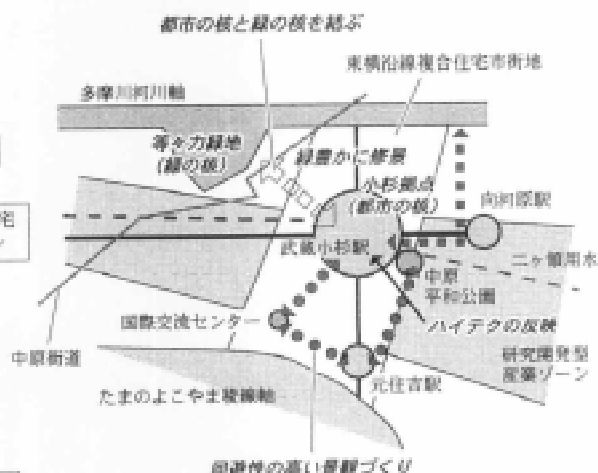
◇景観形成テーマ：都市の風格と緑の核を中心に、生活、文化、歴史、産業が調和した風格のある街なみづくり

◇景観形成基本方針：○圏域内の各ゾーン等の特性を生かしながら、
 ・ ゆとりある緑のオープンスペースによる風格のある都心景観づくり
 ・ 緑地や市民施設をネットワークする文教・住宅市街地景観づくり
 ・ ものづくりの新たな展開をリードする研究開発施設景観づくり
 ・ たまのよこやまの緑を背景にした親しみのある住宅市街地景観づくり
 ・ 多摩川の水辺を生かした快適な職住近接市街地景観づくり
 などをめざします。
 ○武蔵小杉駅周辺の都市の核と等々力緑地の緑の核を結び、中原街道、ニヶ領用水、多摩川などの景観資源をネットワークする回遊性の高い景観づくりをめざします。
 ○落ち着いた風格、歴史、ハイテク感などのイメージを生かした景観づくりをめざします。

■生活景観圏内の景観軸や景観ゾーン等の構成



■小杉周辺生活景観圏概念図



資料：川崎市都市景観形成基本計画（平成8年3月）

(2) 中原区の都市環境の課題

・ 中原区の都市環境を取り巻く課題は、以下のように整理できます。

- 中原区の緑被率は、12.55%であり、『かわさき緑の30プラン（川崎市緑の基本計画）』で目標とされている「30%」にはほど遠い状況にあります。
- 区民一人あたりの公園面積は4.50㎡/人で市内の7区のうち3番目の水準にあります。しかし、等々力緑地と多摩川緑地を除いた区民一人あたりの公園面積は0.73㎡/人となり、他区に比べて低い水準となり、等々力緑地・多摩川緑地以外の公園・緑地の整備が必要となります。
- 上小田中、下小田中、今井南町の一部や新丸子周辺等に公園利用が不便な地域が存在しています。
- 多摩川緑地沿いの多摩沿線道路の交通量が多いため、多摩川緑地にアクセスしにくいとともに、河川敷が、人が集まる憩いや娯楽、文化の空間として整備されていません。
- 井田山は多摩丘陵の東端に位置する中原区の貴重な丘陵地であるため、風致地区に指定するなど、自然環境の保全を図る必要があります。
- 綱島街道や南武沿線道路等において、大気汚染や自動車の騒音が問題視され、街路樹等による道路空間の緑化や景観づくりが求められます。
- 宅地化や宅地の細分化等により、屋敷林や農地等の緑の減少がみられます。
- 花を活用した中原区らしい景観づくりが求められます。
- 渋谷や二ヶ領用水において、渋谷のかるがもの里の鴨の数が年々減少しており、多摩川からの取水権量（5.85トン/秒）を十分に活かした河川づくりをすすめ、ドブ川化等の防止による生態系の回復が必要です。
- 誰もが利用しやすいと感じることのできるバリアフリー化された市街地づくりが必要です。
- 自転車利用者が多いことから、鉄道駅周辺への違法駐輪が目立ち、歩行者の安全な通行を妨げているだけでなく、まちの景観を阻害する要因となっています。
- 等々力緑地へのサイン（案内標識）は整備されたものの、国際交流センター等の公共施設へ向かう道程のサインが分かりづらいため、来訪者にとってわかりやすいサインづくりが必要です。
- 中原街道沿いの史跡や川崎七福神に代表される歴史的な名所等が豊富に存在しているにもかかわらず、それらを有効に活用したまちづくりがすすめられているとはいえません。